

## 神奈川県立平塚ろう学校 令和7年度第2回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第2回学校運営協議会
開催期日	令和7年 10 月 31 日(金)
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校 会議室
出席者	神奈川県立平塚ろう学校 学校運営協議会委員9名(1名欠席)
次回開催予定日	令和8年2月頃
問合せ先	平塚ろう学校 副校長 木川 電 話 0463-32-0129 FAX 0463-32-1646 電子メール hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
会議資料	次第 資料Ⅰ 中間評価
議題	1 授業見学 2 令和7年度中間評価 3 切れ目ない支援部会
審議(会議)経過	<p>1. 学校長挨拶</p> <p>・10月21日、めでたく100周年を迎えた。これまで歩いてこられたのは、皆様のご支援とご協力があったからこそ。100周年記念事業は令和8年度の平ろう祭内で取り組んでいく。</p> <p>・10月24日、25日に平ろう祭が開催され、25日は一般公開をした。卒業生や地域の方々が集いコミュニケーションを取っていたことが印象深く、歴史と伝統を感じた。100周年に向けて、子どもたちが何をしていけば良いか考えている学習の跡が、学校見学で見られると思う。式典に重きを置くのではなく、子どもたちが考えて学ぶ場としていきたいと考えている。</p> <p>2. 授業見学</p> <p>幼稚部「発音あそび」、小学部3年「算数」、中学部1年「数学」「社会」、高等部1年「数学Ⅰ」、2年「国語」等を見学</p> <p>(委員長)小学部3年の授業を見て感じたこと。計算問題でのご褒美シールを子どもに選ばせていたのを見た。シールの感触や選ぶことなど、子どもの学びにつながっていると思う。先生がシールを選んだり貼ったりしては意味がない。先生は、他の場面でも子どもの学びにつながることをさせているのだと感じた。特に知的障害がある子どもにとっては、日常生活の全てが学びである。平ろうは、そのようなことを踏まえた教育的対応がなされている学校だと感じた。</p>

### 3. 委員長挨拶

・授業見学ができて良かった。子どもや教員の頑張りが見られて良かった。ベテランの先生が頑張っておられた。それを思うと、私たちも頑張らなくてはと思う。寒くなり、皆様の体調管理が気になるところ。100周年を迎えた中の中間評価。頑張りを読み取れた。皆様から忌憚ないご意見をいただき、充実・発展させていきたい。

### 4. 学校評価部会協議

・事前に配付した、中間評価をもとに意見をいただいた。

Q. (委員) 評価について。○と△の二つの評価基準なので、わかりにくい。内容を読むと取り組んでいることがわかるが、△がどこまでできていて、できていない部分があるのか分からない。課題が多いと捉えるのか、ちょっとできていないと捉えるのか。

⇒A. (事務局) ○は達成終了、△は取組途中、×が取り組んでいない という基準。△の按配は各グループで違うかもしれない。

(事務局) 班によって評価の扱いは異なる。教育企画グループの所掌する班では、取組を始めているものは○、取組が途中のものは△にしている。

・(委員長) 文面を読むと理解はできるが、△にとらわれると目に付く。課題である。

Q. (委員) 東海大との交流の内容を教えて欲しい。

⇒A. (事務局) 寮務部は寄宿舍を指す。交流は年2回行っている。東海大学の手話サークルとの交流をしているが、本校卒業生が在籍している。1回目は来校してもらい、2回目は大学に行き、見学や食事をともにする交流をしている。大学生と会う機会がなく、貴重な機会ととらえている。

・(委員) 学校評価を読むと一生懸命さは伝わるが、文字要素が多い。写真や絵などビジュアル要素が欲しい。使うと良い資料が作れると思う。

(委員) PowerPoint などを使うと理解しやすい。

(事務局) 資料は事前に配付という方法を取っている。視覚的、分かりやすい資料の提示については、次年度以降工夫をしたい。

Q. (委員) 少人数のクラスやマンツーマンの様子を見て、手厚さはうかがえた。少人数に慣れると社会では大人数になるから大変だと思う。校外の方とのふれあう機会もあるのが分かるが、同年代との取組について知りたい。

⇒A. (事務局) 地域や同世代との交流として、中学部では平塚中等教育学校との交流、相模原中央支援学校との交流も行っている。

(事務局) 高等部では進路に関わるところで、卒業生の仕事や進学の様子を話してもらう機会を作っている。企業見学は高1で行い、仕事見学や体験をしている。卒業生との情報交換をし、社会に出るとどのような変化があるかを肌で感じられるようにしている。高2は修学旅行で宮城ろうとの交流も計画しており、年に3回オンラインで情報交換をしている。

Q. (委員) 大原小で防災キャンプがあり参加した。小5が主体でタブレットを使ってプレゼンしていた。僕は経験がないから分からないが、今、授業では電子黒板に書き込んだり、ICTが取り入れられたりしている。理解度は深まるものなのか知りたい。

⇒A. (事務局) 学習が深まる手応えは感じている。タブレットなどICT機器を使うのが当たり前の環境に子どもたちは育っている。大型電子黒板で視覚的な情報を見て、友だちの表情も見やすいので、ろう難聴児にとって分かりやすく学習が進められるすごく良いツールだと感じている。

(事務局) 授業では視覚的に提示することで理解が進んでいる。私は英語の授業を持っているが、教えた後、読んだり書いたりする宿題を出すようにしている。見るだけで終わらせず、学んだことの定着を図り、読んだり書いたりも取り入れ、バランスをとりながら機器を使っている。

(委員長) ICTを活用するのは大事だが、手書きの大切さもある。例えば、小学部の算数だが、計算はタブレットでもできるが、紙を使ってマス目に適切に数字が書けるかどうかで、その後の学びが変わっていく。特に小学部段階では重要。タブレットと手書きの使い分けが、ろう学校ではできていることが分かった。

## 5. 切れ目ない支援部会

(事務局) 乳幼児相談と通級指導についてパワーポイントを使って説明。

(委員) とても良い事業。共生と我々は言っていても不満も出る。誰もが取り残されない、応援できるところが良いと思った。難聴理解かるたは沢山の人に知ってもらいたいし、見たいし購入できるならしたい。私たちが理解して交流することが良い社会作りにつながると思う。

## 6. その他

(学校長)

・本日欠席の委員より伝言を預かっている。

①100周年記念事業が来年あるが、聴覚障害者協会と一緒に取り組んでいきたいという思いがある。よろしくお願いします。

	<p>②ろうの教員を増やして欲しい。手話言語での授業があることで、ろう児とのコミュニケーションが深まり、学びの理解もより深くなると感じている。</p> <p>③デフリンピック代表 4 人を湘南ジャーナルで取り上げてもらった。学校でも壮行会を行い、卒業生2名が来校された。子どもたちもとても喜び、新しい夢を見つける良いきっかけになった。</p> <p>デフアスリートの活躍をまとめた冊子「瞬」に、33名のデフリンピック選手が紹介されている。ぜひお読みいただき、デフリンピックを応援していただけると嬉しい。</p> <p>7. 事務連絡</p> <p>(事務局) 第 3 回目は令和8年2月 26 日(木) 10:00～11:30。都合が悪い場合は連絡を。</p> <p>(委員) 11月30日に「みんなの楽しめてるか」のイベントを総合公園で行う。平塚市内 4 校の特別支援がブースを出す。お手伝いできる方はご連絡を。</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------